



平賀幸弘院長

医療最前線 2021年の闘い 県立中央病院から

〈204〉

「インフルエンザのようにすぐに収束すると思っていた職員がいたかもしれない」。当時の状況を平賀幸弘院長は振り返る。状況を物語るよう

2月4日の夕方、山梨県立中央病院で緊急会議が開かれた。議題は、新型コロナウイルスの感染者が続出していたクルーズ船「ダイヤモンド・

に、会議に招集された職員の中でマスクを着けていたのは3分の1程度だった。1週間後、実際にクルーズ船の患者が病院に搬送され、

長い闘いは幕を開けた。県立中央病院では7月13日現在、重症患者2人を含む26人を受け入れた。未就学児から90歳を超える高齢者まで年

着用の徹底も呼び掛けていた。全入院患者、全職員を対象にPCR、抗体検査などを行い、院内感染がないことを確

に実施。平賀院長は「最も適切な検査について状況に応じて判断している」と強調する。県立中央病院は県内七つの感染症指定医療機関のうち、

院内感染防止を徹底

リスク減らし診療を継続

代は幅広く、妊婦もいた。病院が独自で実施しているPCR検査は同日時点で、4400件を突破。週3回、早朝に多職種を集めて開く対策会議は現在も続く。

「第2、3波が来る可能性は極めて高い。気を緩めずに対策を継続していく」と平賀院長。ウィルスという「見えない敵」に立ち向かう覚悟を

めにも、院内感染の防止は最重要事項の一つだ。全職員が毎日検温し、病院入り口では来院者の体温チェックを実施。入院患者を含め、マスク

新型コロナウイルスの感染患者を受け入れている県立中央病院。これまでの取り組みを紹介する。

週3回、「密を避け早朝に多職種で開く新型コロナウイルス対策会議」

◇ 新型コロナウイルスの感染患者を受け入れている県立中央病院。これまでの取り組みを紹介する。

唯一の3次救急医療機関であり、発熱、肺炎症状など感染の疑いのある救急患者が多数搬送されてくる。こうした場合、時間がかかるPCR検査ではなく、短時間で結果が分かる抗原、抗体検査を最初

に実施。平賀院長は「最も適切な検査について状況に応じて判断している」と強調する。

県立中央病院は県内七つの感染症指定医療機関のうち、危険性の高い1類感染症の治療も行う「第1種」に指定されている唯一の医療機関。県の方針では新型コロナウイルスの患者のうち、重症者を中心に受け入れる病院となっていて、最大25床を確保できる体制を取った。

「第2、3波が来る可能性は極めて高い。気を緩めずに対策を継続していく」と平賀院長。ウィルスという「見えない敵」に立ち向かう覚悟を



Ⅱ 甲府・県立中央病院

分ける抗原、抗体検査を最初

ます